

令和8年度

運営に関する計画

大阪市立住吉小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は本年度、「思いやり」を教育活動の中心に据え、児童が自己と他者を等しく尊重し、安心して学校生活を送れる基盤づくりに注力する。昨年度は「友だちのよいところを見つける活動」や「ペップトーク授業」を通じて、肯定的な自己の形成に成果が見られた。自己評価でも多くの指標で目標値を達成しており、互いを認め合う校風が徐々に浸透している。また、長年大切にしてきた人権教育や、民族学級・中国学級等との交流活動は、異なる背景を持つ他者への寛容さを育み、本校の安全な教育環境を支える「心の防波堤」として機能している。これらを踏まえ、次年度に向けた現状と課題を以下に整理する。

1. 子どもが安心して成長できる安全な学校の実現

心の教育と人権教育の積み重ねにより、児童間の相互理解は深まり、温かな人間関係が構築されている。避難行動や安全意識についても意識の高まりがみられ、学校・家庭・地域の連携による安全網が機能しつつある。

本校の安全・安心な学校の課題として挙げられるのが、第一には児童の内面を捉える調査精度の向上である。学校生活アンケート等の分析から、設問設計の不備が実態把握に影響した可能性が浮き彫りとなった。数値上の平穩に安住せず、微細な心の変化をすくいあげるための設問再構築と、丁寧な事前指導が不可欠である。第二に、発達段階に応じた自己肯定感の維持である。高学年に進むにつれて自己肯定感が低下する傾向に鑑み、周囲との比較や不安が生じやすい時期に、個々の存在価値を実感させる指導を充実させねばならない。第三に、生活圏の拡大に伴うリスク管理である。本校では SNS 上のトラブルはそれほど起きてはないが、近年、SNS 上のトラブルが学校生活に影を落とす事例が増えていることを鑑み、物理的な安全確保に加え、情報モラル教育を実効性のある形へ進化させ、自律的に身を守り他者を傷つけない「判断力」を養う組織的な指導を強化する必要がある。

2. 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

ICT 端末の「文房具」としての日常化が飛躍的に進み、アナログな指導技術とデジタルツールの融合が始まっている。各教科での具体的指導への活用は児童の知的好奇心を強く刺激した。体力・食育面でも、専門的な栄養指導や体育指導の工夫が実を結び、運動習慣や食事への意識の変容といった、健やかな成長の基盤が醸成されつつある。

最大の焦点は、高まりをみせる「意欲」をいかに「深い学び」へと進化させるかにある。これまでの検索・提示段階から一歩進み、ICT を「思考の武器」として使いこなし、対話を通じて最適解を導き出す「探究の質」が問われている。具体的には、教員のファシリテーションスキルの向上が喫緊の課題である。児童の発言を広げ、繋げ、思考を揺さぶることで、多角的な視点から議論を深める「質の高い話し合い活動」を全学年で構築する必要がある。

る。また、学力の個人差を考慮し、ICT を活用した「個別最適な学び」の提供と、個々の特性に応じたきめ細かな支援を強化する。最終的には、主体的に学び続ける姿勢を育む高次元な対話型学習の構築を推進する必要がある。

3. 学びを支える教育環境の充実

DX 推進が学校文化を変容させ、生成 AI 等の導入が学習意欲の新たな原動力となった。教職員間でも研修を通じた切磋琢磨が定着し、組織的指導力が向上している。ウェルビーイング面では、有給休暇取得率の向上や「ゆとりの日」の設定により、心身の健康管理を組織で支える姿勢が明確になった。地域連携も、地域資源を活用した学習により、一定の水準を維持している。

教職員の超過勤務時間は一昨年度と比べると微増傾向にあり、持続可能な運営体制の構築は道半ばである。教育の質を維持するためには、研究活動を焦点化し、授業計画の早期策定や事務のさらなる DX 化によって、児童と向き合う物理的な時間を確保していく必要がある。さらに、評価指標の見直しも重要である。現在のアンケート項目が学習実態や地域連携の成果を十分に反映しきれていない課題がある。ICT 活用が「楽しさ」に留まっていないか、地域連携が児童の成長にどう繋がったのかを質的に評価できるよう、指標を再編していく。

本校は築き上げた「思いやり」の土壌と「ICT 活用」の基盤を糧とし、さらなる質的向上を目指す。地域との絆を大切にしながら、児童一人ひとりが自信を持って自らの未来を切り拓いていけるよう、全教職員が一丸となって組織的な指導を継続・強化していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向2 豊かな心の育成

- 全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を85%にする。
- 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を95%にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

- 全国学力・学習状況調査における国語の平均正答率の対全国比を1.00にする。
- 全国学力・学習状況調査における算数の平均正答率の対全国比を1.00にする。
- 「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を90%にする。

基本的な方向5 健やかな体の育成

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を90%にする。

【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向6 教育DXの推進

- 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を95%にする。

基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。

基本的な方向8 生涯学習の支援

- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたい。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる
- ③ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ② 時間外勤務時間について、年720時間を超えて実施する教員をゼロにする。
- ③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>③ 学校生活アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたい。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>・教育活動全般において集団づくりに関する指導に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校生活アンケートにおける「学校に来るのが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>・教育活動全体を通じて、人権教育に視点を入れ、「自分」を大切にする、「友だち」を大切にする児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校生活アンケートにおける「自分を大切にしている」「友だちを大切にしている」に対して、いずれも肯定的に回答する児童の割合を 90%にする。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>・教育活動全般において自己有用感を高める指導に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校生活アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。</p> <p>② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・紙媒体や ICT 機器を活用した授業を充実させることにより、子どもたちが「わかった・できた」と実感することのできる授業を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校生活アンケートにおける「国語の勉強がわかりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・紙媒体や ICT 機器を活用した授業を充実させることにより、子どもたちが「わかった・できた」と実感することのできる授業を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校生活アンケートにおける「算数の勉強がわかりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%にする。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>・話し合い学習等を取り入れて、児童が自ら考え問題解決能力や表現力を養う</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・学校生活アンケートにおける「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%にする。</p>	
<p>取組内容④ 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>・体育科の授業において、できたと実感できる体験を増やし、副読本や学習カードなどを活用しながら指導法の工夫に努めると共に、休み時間や運動週間において楽</p>	

しく運動に取り組むことができるようにする。

指標

- ・学校生活アンケートにおける「運動や体を動かす遊び、スポーツをすることが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ① 小学校学力経年調査における「インターネットや生成 AI、SNS 等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 ② 時間外勤務時間について、年 720 時間を超えて実施する教員をゼロにする。 ③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 ・各学年の実態に応じた情報モラル・リテラシー教育に取り組む。 ----- 指標 ・学校生活アンケートにおける「インターネットや生成 AI、SNS 等の危険性や適切な使い方について理解している。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・教職員の心身の健康を図る取組を行う。 ----- 指標 ・時間外勤務時間について、月 60 時間を超えて実施する教員をゼロにする。	
取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 ・教育活動全般において、読書活動を充実させる取組を行う。 ----- 指標 ・学校生活アンケートにおける「本を読むのが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	